今 世界の医療は？

宇野 久光¹⁾ 小野 広一²⁾ 川村 光信³⁾ 吉田 直之⁴⁾

〔日内会誌 100：2334～2336, 2011〕

Key words rhinosinusitis with nasal polyposis, glycemic markers, estimated glomerular filtration rate, albuminuria, cardiovascular risk, hepatitis B virus, tetanus, surrogates of decisions, hearing loss, screening for osteoporosis

最新の医学，医療のトピックスが掲載された米国内科学会（ACP）雑誌（Annals of Internal Medicine）の目次と要旨（抜粋）をACP日本支部 Publication Committee委員が日本語訳し，ACP日本支部のホームページに掲載しています。医学，医療の新たな情報を把握するのに有用了。

URL：http://acpjc.naika.or.jp

Annals of Internal Medicine紹介

1 March 2011 Volume 154 Issue 5

原著（Original Research）

経口ステロイド薬に引き続いたステロイド外用薬による鼻ポリープを伴った慢性鼻副鼻腔炎の治療：無作為化試験

Treatment of chronic rhinosinusitis with nasal polyposis with oral steroids followed by topical steroids：a randomized trial.

Sriram Vaidyanathan, et al.

鼻ポリープに伴う慢性副鼻腔炎の治療において，経口ステロイドの役割を明確にする根拠は，

限定的である。この試験では，鼻腔内ステロイドに反応不十分でサイズが中等度以上の鼻ポリープと慢性副鼻腔炎を持つ患者が，無作為に2週間の経口ステロイド群とプラセボ群に割り付けられ，その後両群ともステロイド点鼻薬やスプレーで治療された。治療28週間で，経口ステロイドによる治療導入後では，ポリープサイズにより大きな減少，および嗅覚のより大きな改善が認められた。しかし，臨床医は，この治療方針を用いる場合，有害事象を考慮すべきである。

血糖マーカーにおける人種差：地域社会を基盤としたデータの横断研究

Racial differences in glycemic markers：a cross-sectional analysis of community-based data. Elizabeth Selvin, et al.

空腹時血糖値が同等でも，黒人のヘモグロビンA_{1c}値は白人より高い。このことは食後血糖の差異を反映するのか，ヘモグロビンの糖化と赤血球の代謝の生理学的差異を反映するのかは，分かっていない。343名の糖尿病患者と1,376

1) 日本赤十字広島看護大学，2) 因島医師会病院，3) 東京通信病院，4) 結核予防会複十字病院

Series：Medical Care in the World—What's New

Hisamitsu Uno¹⁾, Koichi Ono²⁾, Mitsunobu Kawamura³⁾ and Naoyuki Yoshida⁴⁾：1) Japan Red Cross Hiroshima College of Nursing, Japan, 2) Innoshima Medical Associated Hospital, Japan, 3) Tokyo Teishin Hospital, Japan and 4) Fukujuji Hospital, JATA, Japan.

名の非糖尿病患者を対象としたこの研究では、糖化アルブミン、フルクトサミン、1,5-アンヒドログルシトールにおける黒人と白人の差異は、ヘモグロビンA_{1c}値における差異と相似していた。これらの観察結果は、ヘモグロビンの糖化と赤血球の代謝の差異では血清マーカーの人種差を説明しえないことを示唆している。

心血管リスクの高い患者におけるアウトカム予測因子としての推定糸球体濾過量とアルブミン尿：コホート研究

Estimated glomerular filtration rate and albuminuria as predictors of outcomes in patients with high cardiovascular risk : a cohort study.

Catherine M. Clase, et al.

腎臓病は心血管イベントの危険因子のひとつである。古典的な冠危険因子のみではなく、腎機能のマーカーを加えることで、危険予測の改善が可能となるという仮説が唱えられている。この前向きコホート研究は、従来の冠危険因子に推定糸球体濾過量とアルブミン尿を加えても、心血管イベントの危険予測に関して、従来の危険因子から得られる以上の臨床的に有用な情報はほとんど提供されないということを明らかにした。

米国におけるB型肝炎ウイルス：全国代表調査による持続感染、曝露歴、免疫獲得率について

Hepatitis B virus in the United States : infection, exposure, and immunity rates in a nationally representative survey.

George N. Ioannou

現在のB型肝炎ウイルス(HBV)感染の有病率、ウイルス曝露、免疫獲得を推測することは、感染予防計画の効率を評価するのに必要と考えられる。39,787名の参加者による米国全国健康・栄養調査(1999年より2008年まで)の結果によると、6歳以上で、0.27% (約704,000名)が慢性

B型肝炎ウイルス感染であり、また4.6% (約11,993,000名)がHBVに過去に曝露されることがあることが判明した。持続感染、過去の曝露は6から19歳ではほとんどみられず、2歳児の68.6%が免疫を獲得していた。研究者は、高リスクの成人へのワクチン接種は強調され続けるべきであると結論付けている。

レビュー (Reviews)

ナラティブ・レビュー：破傷風—開発途上国における自然災害後の健康への脅威

Narrative review : tetanus—a health threat after natural disasters in developing countries.

Majid Afshar, et al.

予防接種により先進社会では破傷風はまれとなったが、開発途上国では自然災害後に発生が予想される疾患の1つである。このような状況において破傷風に緊急に対応するためには、集中治療室やすぐに利用可能な資源がなく、低温流通機構が機能しない中での集学的アプローチが必要である。破傷風の治療の成功は、迅速な診断、循環する毒素の中和、感染の除去、攣縮や痙攣のコントロールといった治療、気道の確保、呼吸不全や自律神経障害の管理にかかっている。

レビュー (Reviews)

系統的レビュー：本人に代わって治療決定を行うことが代理人に与える影響

Systematic review : the effect on surrogates of making treatment decisions for others.

David Wendler and Annette Rid

WendlerとRidは、治療決定を行うことがそれを行う代理人に対して与える影響の研究をレビューした。大部分が判断能力のない成人に対する終末期医療の決定を行った代理人を対象としているが、11件の定量的研究と29件の定性的研究をみると、多くの代理人が決定を下すことでネガティブな心理的負担を感じていた。心理

的な影響は概して数カ月から数年持続し、緊張や罪の意識、懐疑的な気持ちを含んでいる。今後の研究では、このような代理人が意思決定後に経験する心理的負担を軽減する方法を求めるべきである。

診療ガイドライン (Clinical Guidelines)

50 歳以上の成人に対する難聴のスクリーニング：U.S. Preventive Services Task Force のためのエビデンスのレビュー

Screening adults aged 50 years or older for hearing loss : a review of the evidence for the U.S. Preventive Services Task Force.

Roger Chou, et al.

このレビューは、50 歳以上の成人に対するプライマリ・ケアでの難聴のスクリーニングについて U.S. Preventive Services Task Force (USPSTF, 訳注：米国予防医療サービス専門作成部会) が 1996 年に行った勧告の改訂を知らせるために作成された。スクリーニングは、ある試験において、1 年で補聴器の使用の増加に関連していたが、聴力に関連した機能の改善には関連していなかった。別の試験では、すぐに補聴器を使用することが、使用を待機したコントロール群と比較して、軽・中等度の難聴を有する患者あるいは重度の聴力に関連したハンディキャップを有する患者の聴力に関するクオリティ・オブ・ライフ (QOL) の改善に効果的であった。良質なエビデンスは、一般的なスクリーニング・テストが難聴のリスクがより高い患者の同定に有用であることを示唆している。スクリーニングや補聴器での治療の害に関する直接のエビデンスはなかった。

骨粗鬆症のスクリーニング：U.S. Preventive Services Task Force による勧告声明

Screening for osteoporosis : U.S. Preventive Services Task Force recommendation state-

ment. U.S. Preventive Services Task Force

この勧告声明は、骨粗鬆症のスクリーニングに関する 2002 年 USPSTF (訳注：米国予防医療サービス専門作業部会) の勧告を改訂している。USPSTF は、65 歳以上の女性と、より若年でも特別の骨折リスクを有さない 65 歳の白人女性と同等またはそれ以上のリスクを有する女性において骨粗鬆症のスクリーニングを推奨している。

論評 (Editorials)

経口および鼻腔内ステロイド療法：鼻ポリープに対する新たな治療法となるか

Combined oral and intranasal corticosteroid therapy : an advance in the management of nasal polyposis?

Joaquim Mullol and Isam Alobid

この号で、鼻腔内ステロイド単独では十分な効果が得られなかった鼻ポリープのある慢性副鼻腔炎患者に対する短期間の経口ステロイド薬投与の有効性について、Vaidyanathan と同僚らは明らかにしている。論説委員らは、鼻ポリープのある重症あるいはコントロール不良の慢性副鼻腔炎患者に対して、経口ステロイド薬を初期量 0.5~1.0 mg/kg で開始し、2~3 週間で漸減する方法を主張している。経口ステロイド薬投与後あるいは投与に加えて、鼻腔内ステロイド薬を長期的に使用することが主たる治療方針になるべきである。また、臨床家は経口ステロイド薬使用に伴う副作用についても留意すべきである。

(本号の翻訳者：鈴木克典、吉井康裕、江波戸美緒、今村隆明、井口光孝、白山武司、山本 卓、山内高弘、池田賢一、郷間 厳、沖 将行、以上翻訳順)

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし